

終活セミナー・秋の法要



去る9月5日(土)午前11時～徳成寺においていきいき終活セミナー・ワークショップが玉置妙憂さんをお迎えして開かれました。内容はデストライアル・死の体験と呼ばれる体験学習です。頭で理解しているつもり
の死を、妙憂さんの指示に従って実験してみました。死の際に、最後の最後まで大切に
したかったものは何だったのでしょうか?なぜそれを残したのか?それについてみんなで話
合いました。日頃の暮らしの中で、気づかなかった大切なことや人を再認識しました。と
ってもいい経験でした。

午後1時半から、秋の法要をお勤め致しました。猛暑とコロナと台風に阻まれそうになりましたが、それらも仏法の灯を消すことはできず、お参りの皆さまにお焼香合掌礼拝して頂くことができました。これまで法要の折に、有志の皆さんに手伝って頂いていたお食事作りを再開するのはもう少し先になりそうです。それでも手指の消毒・本堂内の換気・ソーシャルディスタンスを確保しながらの法要も、回を重ねるごとに違和感なく定着して参りました。



午後2時すぎから、福祉講座「これからの毎日を無駄なく生きるために」と題して玉置妙憂さんに講演して頂きました。玉置さんは看護師と僧侶の二刀流です。つれあいさんを看取った後に出家し真言宗のお坊さんになられました。医療の現場で、先立つ人々の声にただただ耳を傾けるスピリチュアルケアに取り組んでおられます。その経験から、国の医療に対する方針や私たちがこの先直面するであろう死の葛藤について、ありのままに語って下さいました。

その葛藤の中で、大事なことは葛藤の振れ幅がなくて済むのは、ブレない軸を持つ人であると教えて下さいました。ブレない軸とは、人それぞれ違っても信仰であったり、ご先祖であったり、あるいはペットであったり、要は自分の帰る場所です。ただ付け焼刃では土壇場に通用しないので、日頃からのお勤めで、いつでも心安らかになれるように習慣化しておくことが大事で、仏法の灯の存在理由について分かりやすく教えて頂きました。

